



“ 誇りを持って輝く未来へ ”

LION M. KESAVAN (DF, PJK)
PRESIDENT 2010/2011
LIONS CLUB OF PETALING JAYA
DISTRICT 308-B2 - MALAYSIA

308-B2地区 - マレーシア L ケサバン



Warmest Greetings and Best Wishes on your club 50th Golden Anniversary celebration and as twins our thought are always be with you on this auspicious occasion. Spanning for half a century would have brought forth many fond memories of meaningful services and harmonious fellowship for your fellow members. Anniversaries are time for reminiscence and strengthen your resolves besides celebrating the successful achievements and past accomplishments. Serving today is much more challenging that the early years as the world has evolved into a new dimension and our usual clarion call of duties will have to be stepped up to meet the constant needs of our globalized community.

Our twinning bond have withstood the test of time and our friendship goes a long way in bridging our different cultures, traditions and customs in the spirit of Lionism. Funabashi Lions Club will always be on our itinerary on our official visitation to any of our sisters' club in Japan and each trip enhances our closed relationship. Attaining these fifty marvellous years, members will look back with great pride of their immensed contributions, commitments and dedication in laying the strong foundation for the future of your club.

My members and I would look forward and thank you, your board and members for the kind invitation to attend your joyous anniversary celebration. Congratulations to your club in reaching this milestone in Lionism and we will continue to support you all our hearts and cherish with you on all your accomplishments. Happy Roaring 50th Anniversary to your club from all of us and many more to come.

Thank you

貴クラブが50周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げますとともに皆様に幸多きことをお祈り致します。また、兄弟クラブである私たちの心は常に皆様の喜びと共にあります。半世紀の時の流れは、様々な良き思い出、意義ある活動あるいは楽しい仲間同士の交流をもたらしたことでしょう。周年記念は、過去の偉業に思いを寄せ、決意を新たにできる機会でもあります。今日、奉仕活動は新時代へ変遷を遂げる世界の中でその真価を問われており、私たちの崇高なる責務も国際社会のニーズに答えられるよう進歩して行くべきであります。

私たち兄弟の絆は試練の時に耐え、友情はライオンズ精神の中で、文化、伝統、慣習の違いを超え絶える事はありません。私たちは日本の姉妹クラブを訪ねるたびに船橋ライオンズクラブに立ち寄り、その度絆は深まりつつあります。50年という驚くべき年月を経た今、皆様は誇りを持って、その偉大なる社会的貢献、役割、そして貴クラブの未来へ向けて不動の礎となる奉仕の精神を振り返られるに違いありません。

貴クラブの栄えある記念式典にお招き下さりありがとうございます。一同、心待ちにしております。貴クラブがライオンズにおいて一つの到達点に達した事をお喜び申し上げます。私たちはこれからも全力で皆様を支え、その業績を称えるでしょう。貴クラブの50周年とよりいっそうのご活躍を祈念し、心から喜びのライオンズロアを捧げます。



“何故か気が合って別れられぬ・・・”

333-E地区

土浦亀城ライオンズクラブ 会長

L 古 梶 剛 士

CN50周年まことにおめでとうございます。クラブ会員一同心よりお喜び申し上げます。

船橋LCは、1962年東京浅草LCのスポンサーにより結成されました。以来、先見的事業や活発な例会だけでなく、これまで5人のガバナーを排出されております。歴代ガバナー経験者のお力もあり、毎年数々の素晴らしいアクティビティを行っておられます。伝統に裏付けされ、かつ斬新な活動には「堅さ」と「柔らかさ」が備えられており、クラブ運営の手本としても尊敬するところであり、他クラブが憧れを抱くところでもあります。

船橋LCと土浦亀城LCの交流は、333-B地区と333-C地区分割の際の引継ぎの中で、当時のCAB役員諸氏が意気投合され、兄弟(姉妹)の契りを交わしたことから始まっております。以来永年に亘り相互の例会訪問や事業交流、時に土浦全国花火大会来場など、数々の交流を続けております。また懇親の場では毎回、何かの歌にあるように「何故か気が合って、別れられぬ」という独特の空気を感じられる喜びはライオンズクラブならではのものです。

今期交流の一例を挙げますと、当クラブの例会に訪問された際に、333-E地区全体ではまだまだ認識の浅いライオンズクエストについて、船橋LCの皆様にご講演頂きました。昨今、国内の教育現場に欠如した部分に、我々は使命感を持って対応しなくてはなりません。今後の333-E地区内での活動再起に結び付けることをお約束申し上げます。

節目の年に若き会長を選任され、このように盛大に周年行事が開催されますこと、貴クラブの懐の深さを思い知らされております。知命の五十年を迎え、「L字の誇り」に益々の隆盛をご期待申し上げ、兄弟・姉妹からの祝辞といたします。



“CN100年に向けて邁進されんことを”



市川ライオンズクラブ
第50代会長

L 溝口昭義

船橋ライオンズクラブのCN50周年、心よりお慶び申し上げます。船橋LCと市川LCの歴史、記録を見ますと系統図上では「兄の子供=甥っ子の子と大叔父」の関係のようですが結成は7か月程違うだけで、義理の兄弟という感じでしょうか？ 市川と船橋、共に隣接した大型な都市でありながら、文化、歴史が大きく異なり貴クラブはその伝統をクラブライフに反映され5人のガバナーの輩出とスポンサークラブとして5つのクラブをエクステンションされましたことは私ども市川LCにとっても誇りに思っています。互いに性格の異なる二つのクラブはどちらかが一番を競うのではなく50年を期にこれからも共存共栄の精神で現在クラブ運営の問題点である会員の高齢化、会員数の減少に互いに取り組みそれぞれの性格、長所を生かしあい、時には刺激しあい学びあいながら努力、精進を続けて地区内外に於いてのクラブの活力の源でありたいと思います。50年目の船橋LCに木全会長さんのように若く新鋭気鋭のリーダーが誕生されたことは素晴らしく市川クラブにとって既に大きな刺激となっております。今日を契機に100年に向け社会奉仕活動に邁進されます事をご期待いたします。

「獅子相承 半世紀を紡ぐ L字の誇り」のスローガンの下、船橋LCのさらなるご発展、ご活躍をご祈念申し上げますお祝いの言葉とさせていただきます。



“LC半世紀は楽しかった”

船橋ライオンズクラブ
チャーターメンバー
333-C地区 元地区ガバナー

L 斎藤 貞雄

昭和三十六年九月二十七日の結成式に集まったチャーターメンバー四十七人のうち約三分の一がそれまでのゴルフの友達その他の知人等だったから直ぐに歓談できた。それにスポンサークラブの浅草LCの江戸っ子気質の飾らない人柄の故佃Lを先頭に、子クラブの誕生を祝ってやろうという意気込みが開会からみなぎって活気に満ちた楽しい結成式だった。あれから五十年、その中で現代在籍しているのは私一人になってしまった。本日の五十周年記念式典は勿論楽しいが、また一面なんともいえぬ寂しさもある。当時はまさか今日まで半世紀も在籍できるなど本人も考えなかった。

チャーターメンバーの半数は明治生まれの頑固者が多かったけれど、なぜか不思議に斎藤君斎藤君と可愛がられたような気がする。そのせいか若いくせにクラブ会長をはじめ地区役員からガバナーまでやらせてもらった。昭和五十六年の年次大会の会場を大海原の客船上で開催することが出来た。元海軍士官の端くれとして男の本懐であった。夢とロマンと冒険が大会のモットー、それを支えてくれた地区役員が当時私につけたあだ名が「夢の介」である。後から後から夢のようなアイデアを言い出して困らせたらしい。

当時はまだ地区分割がされておらず千葉 茨城 栃木の三県にわたる333地区と群馬 新潟を含む複合地区と一緒にあったから、それぞれの県民性の特徴ある方々との交渉競合と交流が楽しかった。千葉県単独の現在とは考えられない事態が起こることもあったがそれだけ、また勉強にもなった。他県に出かけるときは他流試合に出かけるような気分であったし単なる観光では味合う事の出来ない微妙な違いを感じた。

まさにライオンズは出会いであった。友人の縁で銚子、習志野、船橋中央をスポンサーし、半年先に結成した市川クラブと共に千葉県内にライオンズの流れを拡散する元となった。しかしそれやこれやも今や昔の歴史となり忘却のかなたと消えていく。あの人この人と思いを数えるとオートが一杯になってしまう。あれから三十年今やライオンズは別れの間といわなければならない。

ライオンズで得たことといえばまず 他業種の人との交流が出来ること、もしライオンズに入会していなかったらあの人この人と一生会うことができなかつたろうと思うことがある。自分の職業の範囲だけの交際だったら人生なんとも狭小な世界になるだろう。それだけに信頼していたメンバーに退会されることぐらい寂しいものはない。だから一度入会した以上後に残る人々のその寂しさの思いを考えて行動をしてもらいたいのが私の最期に言い残したい言葉である。